

活動報告

平成22年度 新人研修報告書 —新人介護員を中心とした研修への取り組み—

介護老人保健施設さど、看護・介護師長¹⁾、事務部長²⁾、施設長³⁾

森谷 弘子¹⁾、小田 一紀²⁾、服部 晃³⁾

はじめに

当施設では教育委員会を中心とした新人研修が年間計画をもとに実施されている。

今春、まったく看護・介護の知識・経験のない新人が3名採用されたことを受け、前記研修に加え介護の基礎となる解剖生理～疾病などの基礎知識をより分かりやすく習得できるよう、医師及びリハ・栄養士等の専門職種より協力を得、講義を実施した。

その結果、対象とした3名の新人以外の職員や他職種の職員の参加も見られ、全体でお互い学習しあうこと、他職種の仕事・事情を理解することが、業務上有益であることがわかった。

1、実施内容

研修目的：新人教育の一環として専門職種による講義を実施することで、介護に必要な基礎知識を習得する。

期間：平成22年5月19日～9月22日 原則週一回、のべ17回。

時間：日勤業務が終了した午後5時10分より10～30分程度。

企画：施設長、事務部長、看護・介護師長。

講義内容：表1参照。

最終日にアンケートを実施し研修の評価とした。表2参照。

2、結果

講義は、解剖・病気のアトラスコピー、講師作成のレジメ、板書、写真供覧に寄った。

出席率：義務ではなかったが、新人を中心に、全職員の95%がいずれかの講義に参加。

平均出席率は30%、個別に見ると0～82%に渡った。

アンケート結果は、良かった45% まあまあ50% 意味ない0% 無回答5%であった。講義の意義を各人に認識してもらうための評価については、義務化したわけではないのに評価するのはどうかとの意見もあり、各自の出席数を記した参加証を交付した。また講義の担当者には参加証に感謝の辞を添えた。

3、まとめ

新人介護員を中心とした講義を、①業務直後 ②短時間 ③週1回を原則とし試行し、概ね有益との評価をえた。新人だけでなく資格試験準備中の職員やベテランにも刺激になった面が評価された。反省点としては、主題の選び方として①有資格者の有無 ②部門別の講義の場合トピックスを選ぶ ③基礎から応用、あるいは、専門(仕事)の境界領域を選ぶ、といった工夫が必要であった。

研修を実施することで知識の習得に留まらず、お互いが教え合うという基本を通して、職場の円滑な連携、職場一体感の育成が図られたと考える。

表1 講義主題と参加人数及び有益と評価した数

回	日付	主 題	担 当	参加人数	有益と評価した数
1	5、19	方針説明、身体の各部と骨格を覚える	医師	16名	0
2	5、26	骨の役割、関節の仕組み	医師	11名	11
3	6、2	脳 構造と機能	医師	13名	6
4	6、9	脳神経系 生理	医師	7名	3
5	6、16	血管系 動脈硬化	医師	14名	4
6	6、23	血栓と出血	医師	13名	4
7	6、30	消化器 構造と機能	医師	15名	4
8	7、7	熱中症	医師	20名	12
9	7、28	肝・胆道 構造と機能	医師	11名	4
10	8、4	胃、小腸、大腸、盲腸	医師	11名	5
11	8、11	呼吸器 構造と機能	医師	9名	8
12	8、18	腎臓、泌尿器	医師	12名	5
13	8、25	老健・介護保険とは	事務部長	7名	3
14	9、1	栄養・給食	栄養士	14名	8
15	9、8	リハ1	PT	13名	9
16	9、15	リハ2	OT	11名	10
17	9、22	薬物療法	薬剤師	15名	12

表2 施設内研修アンケート結果

1. 職種

- A 看護師
- B 介護職
- C その他

回 答

A	8
B	24
C	8
計	40

2. 出席回数

- A 0回
- B 1～5回
- C 6～10回
- D 11～17回
- E 回答なし

A	1
B	21
C	9
D	7
E	2
計	40

3. 出席理由

- ・個人の勉強の為 … (6)
- ・興味があったから … (4)
- ・その日勤務であった … (4)
- ・知識を得る為 … (5)
- ・強制されて
- ・人体の仕組み等(医療) 今まで勉強したことが無かった為よい研修勉強になると思った為
- ・皆で勉強しよう

4. 欠席理由

- A 興味がなかった
- B 勤務時間の関係
- C 個人的事情
- D その他

A	1
B	32
C	25
D	5
計	63

5. 全体評価

- A 有益（勉強になった）
- B 多少役になった
- C 否（勉強にならなかった。興味がなかった）
- D 回答なし

A	18
B	20
C	0
D	2
計	40

6. 有益だった主題

表1 参照

■今後について

A. 希望の主題

- ・ロコモ（ロコモティブ）
- ・日々の観察や援助に直結する内容
- ・病気疾患に対する対処法注意点
- ・看護介護部でも出来る簡単なリハビリ方法を教えて頂きたいです。
- ・勉強会でなくても良いですが内服薬の見本（介護員がいつでも見れるもの）実物と効果副作用注意点など疑問時に見れるよう作って欲しい。
- ・何でも
- ・特になし

B. 主題の取上げ方

- A 系統的（骨格、身体の臓器など）
- B トピックス（熱中症のように）
- C 疾患別（認知症、骨粗鬆症など）
- D 具体的（薬の飲み方、リハなど）
- E 特に希望ない

A	6
B	23
C	22
D	16
E	2
計	69

C. 講義の回数

- A 今年度に準じる。15回程度
- B もっと少なく
- C もっとしばしば
- D 回答なし

A	15
B	18
C	2
D	5
計	40

D. 今後に関するあなたからの提案

- ・高齢者に起こりやすい病気、症状初期対応について。
- ・外部講師を招いた企画。
- ・狭く深くゆっくりと内容を取り上げるようにしないと学習出来ないと思います。
- ・もう少し教える方と聞いている方のやり取りが多い方が良い。あまりに専門的すぎて分からないことがしばしばある。
- ・事例を交えて下さり、イメージし易く分かり易かった。X-Pはとても興味が持てた。
- ・今年度に準ずる形で少し事例を混じえて注意点や対応方法に触れて頂けると印象に残ると感じました。
- ・与えられたものではなく自ら興味を持って学べる環境が良いと思う（経験者が多いので）研修はお金が係り多くはいけないので現在のように勉強会のプリントを貼って知らせてもらえるとありがたい。また、他の施設の見学。
- ・新人教育を目的とした研修であったが、自己の再確認する時間となった。
- ・出席出来なかった時もあり、もう一度講義を受けたい。
- ・毎週は縛られた感があり、参加意欲を失う。自由参加ではあるが義務的に感じてしまうので間隔をあけて欲しい。
- ・回数を少なくして時間をもう少し長くしても良いのでは
- ・講義の時間を統一して欲しい。
- ・10分という短い時間に伝えたいことをまとめる作業は大変準備に時間を要したと思います。準備をして下さいました講師の皆様には感謝いたします。ありがとうございました。

2010/11/30 受付 (2011-17)